

江戸時代の 旅事情



令和7年

6月14日(土)から

8月17日(日)まで

□開館時間 午前10時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

□休館 日・月曜日

(月曜日が祝日の場合は開館、翌日休館)

□観覧料 大人500円、中高生300円

小学生200円

(20名以上は団体割引2割引)

※土日祝に限り、高校生まで無料

□主催 公益財団法人平野美術館

□後援 浜松市

□特別協賛 株式会社丸八アセットマネージメント

作品 歌川広重「東海道五拾三次」天保十一年頃



東海道五拾三次

富士山



公益財団法人
平野美術館



歌川広重「五十三次名所圖會 廿八 袋井 名物遠州風」安政2年



葛飾北斎「北斎翁道之志遠里 見附 盲犬へ四り八丁」文久2年頃



歌川広重「東海道五拾三次 京 三条大橋」天保12年頃



宮原周応「白沢図」(個人蔵)
江戸中期
白沢の図は厄除けのお守りとして旅人に重宝されていました。
下 漢斎英泉「大井川娘行列」文政初期



作者不詳「東海道名所風俗絵図屏風」江戸後期 六曲一双(左隻)

旅は人生を豊かにしてくれるものとして、古くから人々に親しまれてきました。江戸時代になると幕府により街道の整備がすすめられ、さらに江戸後期には信仰を名目とした旅が大流行します。人々にとって旅がより身近になった影響は文化にも広がり、全国の名所や旅する人々を題材とした浮世絵が数多く生まれました。なかでも東海道の宿場町を題材としたシリーズ「東海道五十三次」は広重を始めとした多くの浮世絵師が手掛けており、作品からは風光明媚な景色や旅を楽しむ人々の様子などが見て取れます。静岡県は東海道にある宿場町の四割を占めており、特に浜松宿は浜松城の城下ということもあって大変な賑わいでした。

本展覧会では、東海道五十三次のシリーズを中心に、全国の名所や宿場町を旅する人々の姿を描いた浮世絵を展示いたします。また、明治期に制作された和洋の入り交じるユニークな東海道シリーズや、旅に因んだ諸道具なども併せて紹介します。

人々が道中で目にした情景を、浮世絵を通してご覧いただき、当時の旅の様子を感じていただければ幸いです。



歌川広重「東海道五拾三次之内 日坂 佐夜ノ中山」天保4年頃



歌川芳員「東海道五十三次内 濱松 まひ坂へ二り半十二丁」嘉永6年



歌川広重「江都名所 志ん橋の圖」天保後期



歌川広重「東海道五拾三次之内 沼津 黄昏圖」天保4年頃



三代歌川広重「東海名所改正道中記十九 産多のした 由井 おき津迄二り十二丁」明治8年



遠鉄バス⑩番のりば 内野台線「元浜町」下車
JR浜松駅よりタクシーで約5分

公益財団法人
平野美術館

〒430-0942 静岡県浜松市中央区元浜町166
TEL.053-474-0811 FAX.053-412-1808
<http://www.hirano-museum.jp>



江戸時代の旅事情
100円割引券
1名様のお予約